

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670101389		
法人名	医療法人		
事業所名	グループホームサムデイ		
所在地	徳島市川内町平石若松95		
自己評価作成日	平成21年9月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.tokushakyo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3670101389&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成21年10月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入浴や洗濯は毎日行っている。事業所内も臭いがないよう掃除や消毒を行っている。24時間、365日対応できる医療連携体制をとり、一人ひとりの入居者について医師と相談をしている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は明るく静かな田園地帯にあり、部屋は全て日当たりや風通しがよく、緑の風景を楽しむことができる。職員は、利用者が「明るく楽しく安らぎと幸せを実感」できるよう支援し、清潔管理や環境整備に力を尽くしている。また、週に1回、訪問診療を受けられるよう支援するなど、医療機関との連携による健康管理にも努めている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人ひとりその人らしく暮らし続けることができるよう支援していくことを理念とし、カンファレンスやそのつど、具体的にどのようなケアをするかを職員間で話し合っている。「グループホームとは？」についてはいつも話し合っている。	平成16年の開設当初につくられた事業所独自の理念を共有している。しかし、平成18年の地域密着型サービス創設より後に、その意義をふまえた理念の話し合いが行われていない。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念について話し合うことが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、夏祭りや敬老会にも参加している。しかし、日常的な交流まではできていない。	法人が町内会に加入している。婦人会による大正琴や歌、舞踊等の来訪、保育園との交流などがある。また、近隣住民とは、散歩の途中に飼い犬を見せてもらったり、立ち話をしたりするなど日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常生活の支援をしながら、地域のなかで何か役立つことについて、家族を含めて話しているが、日々の生活で手一杯で、できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族の意見や地域の方との関わりをもって、サービスの向上に活かしている。会議では報告したり要望や意見などいろいろ聞いている。	運営推進会議には入居者や家族、地域包括支援センター職員、民生委員、保育園園長が参加し、行事予定を報告したり、意見交換したりしている。今年5月からは2か月に1回開催されているが、過去1年間の開催頻度は2か月に1回となっていない。	運営推進会議は、今後も2か月に1回の頻度で開催されたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者には困ったことなどについて相談をしている。地域包括支援センターの担当者が、時々資料(研修、講演)などの案内を持ってきてくれたりしている。	市担当者には、運営や体制づくりに関する相談を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの理解と実践しており、外に出ようとする行為が見られたら、一緒に散歩に出かけるよう言葉かけをしている。	カンファレンスで話し合っ理解したうえで身体拘束をしないケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ざれることがないように注意を払い、防止に努めている	内出血班が見られたら、原因をみんなで考えたり(薬によるもの)、言葉使いにも注意をするように伝えている。		

自己	外部	項目	1階	
			自己評価 実践状況	外部評価 実践状況
			外部評価 次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の説明が必要と思われる入居者の方には、説明をしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明している。料金や急変時の対応、不可抗力による事故などについて説明している。説明時には、希望や不安なことなどを聞くようにしている。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や家族参加の行事、面会の時、また毎月のお便りなどに日頃から話をさせていただくことが多い。	家族会や運営推進会議、面会時などを利用して要望や意見を聞き、玄関には意見箱を設置している。出された要望等は、運営に反映させている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図っている。カンファレンスの時には、物品の購入や業務改善などについて職員から聞く機会を設けている。	月に2回、カンファレンスを開催し、職員からの意見や提案を聞いて運営に反映させている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則を作成しており、休憩時間のとり方、職員のストレス、悩みなどに気を配るようにしている。また、資格取得など向上心を持てるよう支援している。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には順番に参加しており、参加した職員は、内容をカンファレンス時に報告し、他の職員に周知できるようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとの交流を行うなどして、親睦を図っている。研修への参加を呼び掛けたりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で家族と話し、入居に当たっての不安やサービスについての要望を理解するようにしている。センター方式を使って若い頃の情報収集をし、関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、入居後間もない期間は、十分話を聞くようにしている。その中から、不安や相談、悩みを聞きだすようにし、少しでも安心して生活できるよう支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最初に希望されることを聞いたり、事業所で行っていることを説明している。家族が何を希望されているかを聞き、対応を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	悩みや出来事を話し合ったり、生活上の役割分担を支援している。また、人生の先輩として教えていただくことも多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、お便りなど、緊急の時は電話で近況をさせていただいている。家族や本人の思いを伝え、外出やお墓参りなどのお手伝いをお願いしたり、面会時には家族にお風呂やトイレ介助をお願いするようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時に、面会についての希望をお聞きし、友人やご近所の方の面会がスムーズにいくよう支援している。コーヒーが好きな方には、外出して飲める機会を増やしている。	お墓参りや外食に行ったり、家族も参加できる行事を実施したりして馴染みの関係を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者同士の関係がうまくいくように、調整役になっている。公平な立場で、孤立しないよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	職員は利用者が入院や転居をされても、自分の休みを利用してお見舞いや面会に行ったり、亡くなられた時には、職員全員でお通夜、お葬式に行くなどしている。退居されてから何年も経つ方で、年賀状での近況報告をさせていただきやりとりが続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家に帰りたいという本人の思いを家族に伝え、わずかな時間でも帰ってもらったり、家族が心配な場合には職員と一緒にいて行くなどの支援をしている。	センター方式を用いてアセスメントを行い、また日々の動作や表情などから一人ひとりの思いや意向を把握している。職員は全員で共有し、利用者がその人らしく暮らし続けられるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や面会に来られた方、本人などからお聞きしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活を観察し、できる支援を探して事業所での役割分担を大切にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望を聞いたり、家族にも希望を聞き、取り入れるようにしている。洗濯物たみなど、具体的な支援方法についても話し合っている。	職員は日頃から本人や家族、関係者から意見や要望等を聞いておき、カンファレンスにおいて全員で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌に個別の記録や気づき、工夫などを記録しているので、出勤時に読んでサインをしてから業務に就くようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な外出や病院の付添いなど、家族と相談しながら状況に合わせて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所を訪問してくれる理・美容院や歯科診療、販売などを心身の状況に合わせて活用している。外泊中のお弁当宅配サービスの案内なども行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と相談し、納得されたかかりつけ医と常時、適切な医療を受けられるよう支援している。	内科・外科は法人の医療機関がかかりつけ医となり、毎週、訪問診療を行っている。眼科や耳鼻科、歯科等については利用者や家族が希望する病院を受診できるよう支援している。必要時には送迎や受診時の付き添いなども行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、健康管理や医師との連携はもちろん、適切な処置が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族に連絡をしたり病院に面会に行き、直接治療計画を聞いて、おおよその退院の目処を知るようにしている。それに応じて家族と相談したり、退居などを検討するなどの対応をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や運営推進会議などで、重度化した場合に事業所でできることを話している。終末期については、主治医と十分話し合い、連携病院の看護師の協力も得ながら、毎日家族と相談し、説明を行っている。	事業所に対応できる基準を明示し、入居時から本人や家族、関係者間で機会あるごとに話し合っている。またチーム全体で方針を共有し、個々の支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	誤嚥時の対応やAEDの使い方など、カンファレンスの時に勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を実施している。地域や家族にも言葉かけを行っている。	年に2回、利用者と共に避難訓練を実施している。近隣住民や婦人会、保育園、町内会、老人会などにも働きかけ、協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	1階		
			自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	
			外部評価 次のステップに向けて期待したい内容		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけを行っている。	一人ひとりの生活背景や性格を考慮して時間をかけて接し、その時・その人に合わせた対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人ひとりに合わせて、自己決定できるような支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて生活していただくよう言葉かけや支援をしている。行きたい所や買い物など、日頃の会話から汲み取るようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	モーニングケアや季節に合った服を着ていたり、ひげそり、入浴後や洗面後の肌の手入れなど日常生活に取り入れて行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	じゃがいもやニンジンの皮むき、インゲンの筋とり、事業所で育てた、野菜と一緒に採るなどして一人ひとりの力を活かし、食事を楽しんでいただいている。	利用者は、テーブルに座って野菜の筋取りや皮むきをしたり、白板に献立を書き込んだりするなど役割を楽しんでいる。職員は盛りつけや、嗜好への配慮、食べやすい形態への工夫などを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の形態を変えて本人が食べやすいように工夫したり、高カロリー補助食品を使ったり一人ひとりに合わせた工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に合わせて行っている。		

自己	外部	項目	1階		
			自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	
			外部評価 次のステップに向けて期待したい内容		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のサインを見逃さないようにするなど、個人の能力に応じてできる支援を行っている。	排泄チェック表の活用、利用者の表情や言動の観察を行い、日中はトイレ誘導や見守りによって気持ちよく排泄できるよう支援している。夜間は状況によってポータブルトイレを使ってもらうなどしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無、量を毎日チェックしている。3日排便がない場合は医師の指示に従って、浣腸や下剤の服用を行っている。また、薬の服用時間についても個々によって変えている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとり、時間をかけてゆったりと入ってもらっている。入浴時間については、朝風呂の希望者もいて、他の入居者の方も入っている。	入浴は、毎日、時間を調整したり、対応する職員を変えたりして、入浴を嫌がる利用者も含めて一人ひとりがゆったりと楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	規則正しい生活を心がけている。昼寝をされる方や夜間不眠の方など、その時々状況に合わせて眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の内容を把握し、変更があった場合においても、誰がみてもすぐわかるように薬袋に書くなど工夫している。頓用についても同じである。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの役割分担ができており、得意分野を活かして支援している。ドライブや散歩など気分転換できる支援も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	玄関先での日光浴や水やり、掃除など日常的に外に出られるような支援を行っている。また、家族とともに出かけた。観光バスを使って遠足に出かけるなどしている。	中庭での日光浴や近くの神社への散歩などを行っている。また週に2回ドライブに行ったり、年に2回、家族と一緒に外出行事を楽しんでもらったりしている。温泉好きの利用者とスーパー銭湯に行き、喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族から財布を預かっており、外出や病院の支払いなどの支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っておられる方もおいでですが、持っていない方は、固定電話を使って話をしていただいたり、言葉かけをして意志を確認したりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	矢印を使ってトイレの場所を表示したり、お風呂の入口に暖簾をつけるなどして混乱しないようにしている。掲示板には季節のものを掲示している。	ゆったりした広さの居間や食堂にはテーブルやソファを置き、思い思いに過ごせるよう配慮している。また中庭の花や植木を見渡すことができ、栗の実や紅葉の飾り付けなどとともに、季節感のある居心地のよい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファや各所に置いてあるイスで自由に休まれたり、話をされたりして思いおもいに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には写真や使い慣れたものなど馴染みのあるものを用意していただいている。自宅での生活に近いようにしていただいている。	居室には鏡台やタンス、テレビなどを使いやすいように配置している。また、孫の写真を飾るなど、その人らしく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関やお風呂場の手すりの設置を増やしたり、トイレのドアをカーテンにしたりしてできるだけ自立できるよう工夫している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人ひとりその人らしく暮らし続けることができるよう支援していくことを理念とし、カンファレンスやそのつど、具体的にどのようなケアをするかを職員間で話し合っている。「グループホームとは？」についてはいつも話し合っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、夏祭りや敬老会にも参加している。しかし日常的な交流までは、できていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常生活の支援をしながら、地域のなかで何か役立つことについて、家族を含めて話しているが、日々の生活で手一杯で、できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族の意見や地域の方との関わりをもって、サービスの向上に活かしている。会議では報告したり要望や意見などいろいろ聞いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者には、困ったことなどについて相談をしている。地域包括支援センターの担当者が、時々資料(研修、講演)などの案内を持ってきてくれたりしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの理解と実践をしており、外に出ようとする行為が見られたら、一緒に散歩に出かけるよう言葉かけをしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内出血班が見られたら、原因をみんなで考えたり(薬によるもの)、言葉使いにも注意をするように伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の説明が必要と思われる入居者の方には、説明をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明している。料金や急変時の対応、不可抗力による事故などについて説明している。説明時には、希望や不安なことなどを聞くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や家族参加の行事、面会の時、また毎月のお便りなどに日頃から話をさせていただくことが多い。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図っている。カンファレンスの時には、物品の購入や業務改善などについて職員から聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則を作成しており、休憩時間のとり方、職員のストレス、悩みなどに気を配るようになっている。また、資格取得など向上心を持てるよう支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には順番に参加しており、参加した職員は、内容をカンファレンス時に報告し、他の職員に周知できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとの交流を行うなどして、親睦を図っている。研修への参加を呼び掛けたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で家族と話し、入居に当たっての不安やサービスについての要望を理解するようにしている。センター方式を使って若い頃の情報収集をし、関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、入居後間もない期間は、十分話を聞くようにしている。その中から、不安や相談、悩みを聞き出すようにし、少しでも安心して生活できるよう支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最初に希望されることを聞いたり、事業所で行っていることを説明している。家族が何を希望されているかを聞き、対応を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	悩みや出来事を話し合ったり、生活上の役割分担を支援している。また、人生の先輩として教えていただくことも多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、お便りなど、緊急の時は電話で近況をさせていただいている。家族や本人の思いを伝え、外出やお墓参りなどのお手伝いをお願いしたり、面会時には家族にお風呂やトイレ介助をお願いするようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時に、面会についての希望をお聞きし、友人やご近所の方の面会がスムーズにいくよう支援している。コーヒーが好きな方には、外出して飲める機会を増やしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者同士の関係がうまくいくように、調整役になっている。公平な立場で、孤立しないよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	職員は利用者が入院や転居をされても、自分の休みを利用してお見舞いや面会に行ったり、亡くなられた時には、職員全員でお通夜、お葬式に行くなどしている。退居されてから何年も経つ方で、年賀状での近況報告をさせていただきやりとりが続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家に帰りたいという本人の思いを家族に伝え、わずかな時間でも帰ってもらったり、家族が心配な場合には職員と一緒にについて行くなどの支援をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や面会に来られた方、本人などからお聞きしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活を観察し、できる支援を探して事業所での役割分担を大切にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望を聞いたり、家族にも希望を聞き、取り入れるようにしている。洗濯物たみなど、具体的な支援方法についても話し合っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌に個別の記録や気づき、工夫などを記録しているので、出勤時に読んでサインをしてから業務に就くようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な外出や病院の付添いなど、家族と相談しながら状況に合わせて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所を訪問してくれる理・美容院や歯科診療、販売などを心身の状況に合わせて活用している。外泊中のお弁当宅配サービスの案内なども行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と相談し、納得されたかかりつけ医と常時、適切な医療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、健康管理や医師との連携はもちろん、適切な処置が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族に連絡をしたり病院に面会に行き、直接治療計画を聞いて、おおよその退院の目処を知るようにしている。それに応じて家族と相談したり、退居などを検討するなどの対応をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や運営推進会議などで、重度化した場合に事業所でできることを話している。終末期については、主治医と十分話し合い、連携病院の看護師の協力も得ながら、毎日家族と相談し、説明を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	誤嚥時の対応やAEDの使い方など、カンファレンスの時に勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を実施している。地域や家族にも言葉かけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人ひとりに合わせて、自己決定できるような支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて生活していただくよう言葉かけや支援をしている。行きたい所や買い物など、日頃の会話から汲み取るようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	モーニングケアや季節に合った服を着ていただいたり、ひげそり、入浴後や洗面後の肌の手入れなど日常の生活に取り入れて行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	じゃがいもやニンジンの皮むき、インゲンの筋とり、事業所で育てた、野菜と一緒に採るなどして一人ひとりの力を活かし、食事を楽しんでいただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の形態を変えて本人が食べやすいように工夫したり、高カロリー補助食品を使ったり一人ひとりに合わせた工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に合わせて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のサインを見逃さないようにするなど、個人の能力に応じてできる支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無、量を毎日チェックしている。3日排便がない場合は医師の指示に従って、洗腸や下剤の服用を行っている。また、薬の服用時間についても個々によって変えている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとり、時間をかけてゆったりと入ってもらっている。入浴時間については、朝風呂の希望者もいて、他の入居者の方も入っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	規則正しい生活を心がけている。昼寝をされる方や夜間不眠の方など、その時々状況に合わせて眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の内容を把握し、変更があった場合においても、誰がみてもすぐにわかるように薬袋に書くなど工夫している。頓用についても同じである。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの役割分担ができており、得意分野を活かして支援している。ドライブや散歩など気分転換できる支援も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	玄関先での日光浴や水やり、掃除など日常的に外に出られるような支援を行っている。また、家族とともに出かけたり、観光バスを使って遠足に出かけるなどしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族から財布を預かっており、外出や病院の支払いなどの支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っておられる方もおいでるが、持っていない方は、固定電話を使って話をしていただいたり、言葉かけをして意志を確認したりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	矢印を使ってトイレの場所を表示したり、お風呂の入口に暖簾をつけるなどして混乱しないようにしている。掲示板には季節のものを掲示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファや各所に置いてあるイスで自由に休まれたり、話をされたりして思いおもいに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には写真や使い慣れたものなど馴染みのあるものを用意していただいている。自宅での生活に近いようにしていただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関やお風呂場の手すりの設置を増やしたり、トイレのドアをカーテンにしたりしてできるだけ自立できるよう工夫している。		